

楽たま通信

平成29年度
No.10



「良城しぐさ」を明確にして、秘伝の技を継続していきましょう。

毎朝の校門での見守りは楽しくてたまりません。私の目を覗き込んで挨拶をする子、申し合わせたように元気な声で挨拶する二人組。毎朝、子どもたちから元気と笑顔をもらっています。

学校前の道路では壁沿いに一列になる子どもたち。給食室出口では、ぺこっと会釈をする6年生。休み時間終了の音楽が流れると我先に走って戻る子。毎朝、ピロティを黙々ときれいにしてくれる6年生。修学旅行が晴れますようにと、1年生全員で作ってくれるてるてる坊主。

良城小学校には、すてきな姿があふれています。これこそ良城小だからこそその教育です。

しかし、良城小学校の児童は昔からずっとこのような姿であった訳ではありません。これらの姿は、教育・協育のたまものなのです。

先々週、鴻南中学校で小中連絡会議がありました。3校区の管理職、生徒指導関係職員、PTAが集まって、生徒指導や地域連携等に関する協議をしました。

実は、この会は十数年前に鴻南中学校が荒れて大変だった時期に、その対応のために始まったものです。その頃は、鴻南中だけでなく平川中も上宇部中も、県内の多くの中学校が荒れました。

荒れが目立ったのは中学校でしたが、当然その素因は小学校にあったはずです。おそらく良城小学校でも数々の問題があったことでしょう。

今の良城小の児童の姿は、きっとその頃からの職員、保護者、地域の皆さんが積み上げた協育の成果だと思います。当時の関係者の努力は並大抵ではなかったことでし

よう。

良城小学校では、その頃からの素晴らしい取組が今でも脈々と受け継がれています。私を含め、今年度着任した誰もが、児童の姿に驚きました。

しかし、これらの姿の維持は簡単ではありません。歴代の先生方が、全力で受け継いできたからこそ、今の姿があるのです。

ここ数年で、本校の多くの職員が入れ替わっています。新しい職員の着任は、学校の活性化になります。しかし、それは、新しく着任した職員それぞれが、新しい感覚をもとに、学校に新しい風・取組を流入してこそのものであります。

それ以上に大切なことは、その学校のよさを確実に継承していくことです。

そのためには、良城小の良さ、そして、それを支えてきた教育・協育を明確にしていく必要があると思います。

伝統は曖昧なままでは、あっという間に廃れてしまいます。昔から伝統の裏には、「秘伝の技」があります。

多くの職員が入れ替わってきた今こそ、良城小学校の秘伝の技を明らかにして、継承していきましょう。

良城小の児童のすてきな行動を「良城しぐさ」として取り出し、それを支える指導内容（秘伝の技）を明らかにして、全ての職員で日常的に行っていきましょう。

今後、この良城しぐさをまとめていきたいと考えています。文章化したり、イラスト化したりと色々なアイデアがあると思います。児童がまとめてもいいかもしれません（PTAにも参画してもらおうことも）。そして、それを吉敷地区全体で共有しみんな協育していきましょう。